

⑫ Int. Cl.

A 61 F 5/455
13/18

識別記号

庁内整理番号

6779-4C
6737-4C

⑬ 公告 昭和61年(1986)9月8日

(全3頁)

⑭ 考案の名称 婦女子用体外排泄液吸収体

⑮ 実 願 昭59-81426

⑯ 公 開 昭60-192823

⑰ 出 願 昭59(1984)5月31日

⑱ 昭60(1985)12月21日

⑲ 考 案 者 山 田 稔 調布市仙川町3丁目11番36号
⑳ 出 願 人 山 田 稔 調布市仙川町3丁目11番36号
㉑ 代 理 人 弁理士 早川 政名
㉒ 審 査 官 近 藤 兼 敏

1

2

⑳ 実用新案登録請求の範囲

吸収体の正面に凹窪部を凹設して、その内周壁に沿い吸収面域を形成すると共に凹窪部底面に吸収頭部を凹窪部内から大略山形状に頭出し形成してなる婦女子用体外排泄液吸収体。

考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は排尿用おむつ或いは生理用ナプキンとして利用される婦女子用の吸収体に関する。

(従来技術)

第4図は出願人が開発した吸収体を示しており、吸収体正面に凹窪部を凹設して、その内周壁に沿い吸収面域を形成した構造のものである。

この吸収体は、拡張された吸収面域である内周壁からも尿等を効率良く吸収して、尿が凹窪部内から溢流しないように改善しているものである。

(考案が解決しようとする問題点)

本考案は局部との間の隙間を積極的になくし、流出部分で吸収しきれない排泄液を内周壁の吸収面域に誘導し且つ局部における残液をなくすことを課題とする。

(問題点を解決するための手段)

本考案は上記課題を達成するために、吸収体の正面に凹窪部を凹設して、その内周壁に沿い吸収面域を形成すると共に凹窪部底面に吸収頭部を凹窪部内から大略山形状に頭出し形成した構成を特徴とする。

(作用)

吸収頭部が局部に密着して、排泄液は吸収頭部

に吸収されると共にその瞬間的に吸収されない排泄液は吸収頭部面に沿い吸収面域に誘導されて吸収され、局部における残液は吸収頭部に吸収されて残らない。

5 (実施例)

吸収体1は袋体2と吸液体3とからなり、袋体2は防水性合成樹脂フィルム又は内面が防水膜で覆われて外面が肌触りの良い繊維で覆われている素材により側面扁平の縦長袋状に成形しており、その正面上半部中央には適宜形態(図面上では縦長楕円形状)の開口2aを設け、袋体内には吸液体3を収納する。

この袋体2の正面形態は図面に示す縦長矩形状又は逆台形状又は小判状又はこれらに類する適宜の形状とする。

吸液体3は柔軟性および吸収性に富む素材たとえばパルプ材、合成繊維とパルプ繊維との混合材、SMC等の高吸収材を採用して、その吸液体3aを平状に多数積層して形成し、開口2a位置には正面同形態状の凹窪部4を適宜深さに設け、凹窪部4底面には吸収頭部5を凹窪部4内から山形状に頭出し形成している。この凹窪部4の深さは浅いよりも深いほうが望ましく、その内周壁4aの吸収面域aを拡大し得る。

凹窪部4はその内周壁4aを吸収面域aとすると共に環状堤6としていて、この環状堤6で装着時において局部を包囲し且つ内周壁4aと吸収頭部5と局部周りとの間に環状空間Sを確保して、同空間Sの外周りを吸収面域aが形成しているよ

うにしてある。

吸液体 3 の各吸液紙 3 a の積層密度は、各吸水紙が互いに重合して、吸液体 3 全体としての柔軟性を損わぬ程度とし、且つ各吸液紙 3 a 間にはその紙面間に無数の毛細管路 b が形成されて、これらの毛細管路 b が凹窪部 4 の吸収面域 a に覗き出

て連通し、吸収頭部 5 のみならず吸収面域 a から小便或いはメンスを効率良く毛細管吸収し得るよう

にしてある。吸液紙 3 a にはたとえば一方に皺の有る吸水紙を採用して、その皺方向を縦長方向に沿うように構成することにより、無数の皺に沿って形成される毛細管路 b が凹窪部 4 と上下に連通して、小便或いはメンスがその自重によつても下方にスムーズに流動し易くなり、さらに吸収体 1 の横方向の縮小率が大きくなり、形態変形度合が大きくて、股間になじみ易い。

吸収頭部 5 は頂部が上下に延びている大略山形状に形成しており、その山形状はたとえば半円形状にして局部に隙間なく密接し得るようにして

る。この吸収頭部 5 の横断面構造は吸液紙 5 a の左右両端を夫々内側に折返し、裏側に保形用の吸液紙 5 b を入れている、横方向に縮小し易く形成している。また吸収頭部 5 の表面は非水溶性の繊維等の透液紙 5 c で形成して、同表面がサラツとしていてベタつかずに肌触りが良く、快適な密接状態が得られるようにしている。

これにより次の実施例効果がある。

- ③ 凹窪部は、その積層している各吸液紙の間の微小空間が毛細管路として働き、しかもその毛細管路が凹窪部の環状空間 S における吸収面域 a に覗き出て通じているために、紙自体の吸液

能力と、各毛細管路による吸液能力との相乗吸液能力を得ることができて、吸液率が極めて高い。

- ④ 吸液体は多数の吸液紙を平状に積層形成したものであるために、吸収頭部とともに柔軟性および形態変形性に富み、装着時の異物感が僅かであると共に吸収後にも柔軟性を失わずに柔かくて総じて異物すなわち吸収体の装着感が軽い有用性がある。

- ⑤ 肌に密接する吸収頭部の表面が非水溶性の透水紙製で、サラツとしていて肌触りが良く、局部にベタつかず付着せずして良好である。

- ⑥ 吸収頭部が横断面半円形状であるから、肌になじみ易く、異物抵抗が少ない。

(考案の効果)

- ① 吸収頭部が局部に密接して、その流出部分で瞬間的に吸収しきれない液を肌との間の頭部面に沿って環状空間そして吸収面域に誘導して、同空間における吸収面域でその液を吸収でき、吸収面である頭部面を誘導面としても活用して、液洩れなく確実に吸収処理できる。

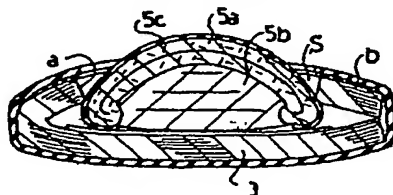
- ② 吸収頭部が局部に密接して、液を確実に吸収処理でき、局部および局部回りの残液が実質的に拭き取られた様に残らない。

図面の簡単な説明

第 1 図は本考案吸収体の一実施例を示す縦断側面図。第 2 図は正面図。第 3 図はⅢ-Ⅲ線に沿える横断面図。第 4 図は従来例を示す縦断面図である。

図中、1 は吸収体、4 は凹窪部、4 a は内周壁、5 は吸収頭部、a は吸収面域。

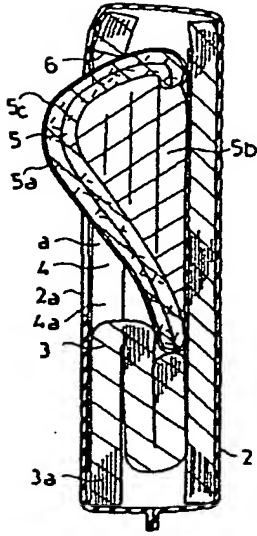
第 3 図



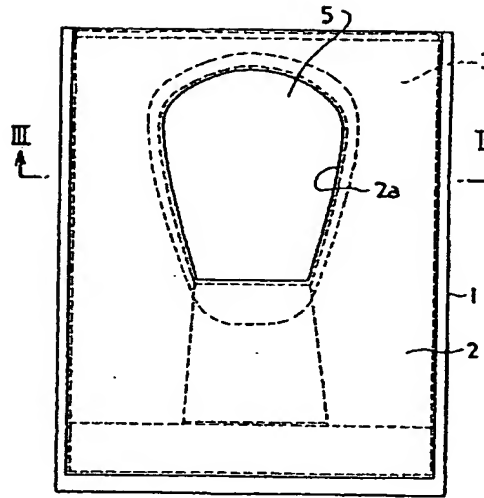
(3)

実公 昭 61-30657

第 1 図



第 2 図



第 4 図

